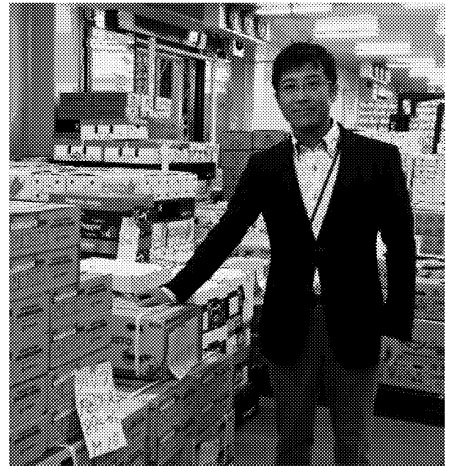


鹿児島県鹿屋市に本社を置く南九は中国など世界各地からの青果物輸入を軸に、3年前から社長を務める業績を伸ばしている。東京商工リサーチ鹿屋支店によると2016年度の県内での売上高上位100社中、増収率が4番目に大きかった。山下伸也社長(45)が国際貿易拠点である福岡市に常駐し、父親で創業者の幸一会長(69)は本社に陣取ってメガソーラー事業などを手掛ける。それぞれの立地特性を生かした「二眼レフ経営」が特徴だ。

南九 青果物の輸入

調達先広げ業務用開拓



山下社長は福岡市に常駐し青果物の輸出入を統括（福岡市の南九貿易物流センター）

中食など業務用のニーズに「一通りこたえられる」と伸也氏は胸を張る。

☆☆☆

南九の売上高は17年3月期で94億4千万円。前の期より約2割増えた。台風

会社概要	
本社	鹿児島県鹿屋市下堀町9578番地 5
代表者	山下伸也社長
電話番号	0994・44・1860
売上高	94億4千万円（2017年3月期）
設立	1980年4月
従業員数	約40人
事業内容	農産物輸出入、農産物生産販売、太陽光発電など

同社は1980年に「南

の包装材や省力機器を扱いながら地元農家に根菜類の生産を委託した。より大量かつ安定した生産が可能になった。93年の調達を増やし、06年から94年から輸入を始めた。伸也氏は幸一氏の勧めで90年代半ばに大連へ語学留学。野菜の生産現場にも足を運んだ。「生活が豊かになったと農家が喜んでくれる。そんな仕事を自分もしたい」。卸での修業を経て家業に参加。福岡事業を立ち上げた。98年設立の福岡営業所は2004年に福岡貿易部、4月から福岡貿易本部へと発展した。

☆☆☆

九州資材」として設立。3年前に現社名に変更した。幸一氏は最初に勤めた百貨店を振り出しに野菜販売を長く経験。同社でも農業用

を敬遠する動きが広まったのだ。当時の同社は中国産青果物への依存度が約50%。そこで他国・地域から調達を増やし、06年から扱う輸入果物の品目も拡充した。並行して最終的な供給先もスーパーなど小売業から業務用へ移行。3年ほどで成長軌道に戻した。今後は輸出拡大も視野にあり、4月から鹿児島グリーン事業本部を兼ねる本社が農産物物の輸出を後押しする。鹿児島では新エネルギー事業での地域貢献も目指す。最初の太陽光発電所は13年に稼働し現在の合計出力は約2万キロワット。5年後に3万5千キロワット体制をめざす。「理想は生涯現役」

☆☆☆

逆風も体験した。08年に発覚した毒入りギョーザ事件がきっかけで中国産食品（鹿児島支局長 松尾哲司）